

委員会審議	平成29年2月24日
-------	------------

申請者	病理診断部長	南 優子
1	悪性胸膜中皮腫の前方視的データベース研究	
研究の概要	<p>悪性胸膜中皮腫の発生には、石綿の曝露が大きく関与しており、曝露からの潜伏期間が30-40年と言われており、我が国では2020年から2030年代がピークとなる見込みで、近年、国際的に共通の病期の確立の必要性が認識され、世界肺癌学会と国際中皮腫研究会が中心となった後方視的国際データベース事業がおこなわれ、我が国からも世界で5番目に多い症例を登録している。しかしこのデータベースでは、悪性胸膜中皮腫治療の真の現状を反映していないので、本邦の肺癌登録合同委員会が悪性胸膜中皮腫症例の前方視的データベース事業を行うことになり、当院もその1施設となった。</p>	
判定	承認	本審査は全員一致で承認された

z